

経営比較分析表（平成30年度決算）

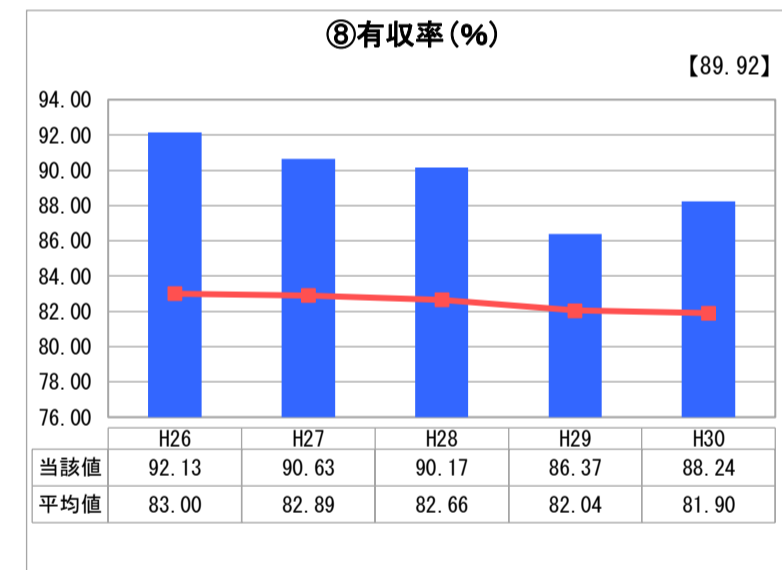
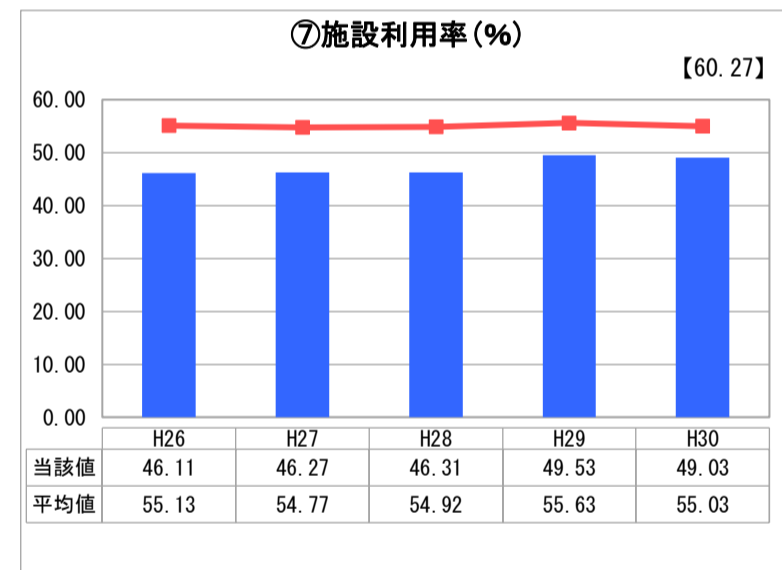
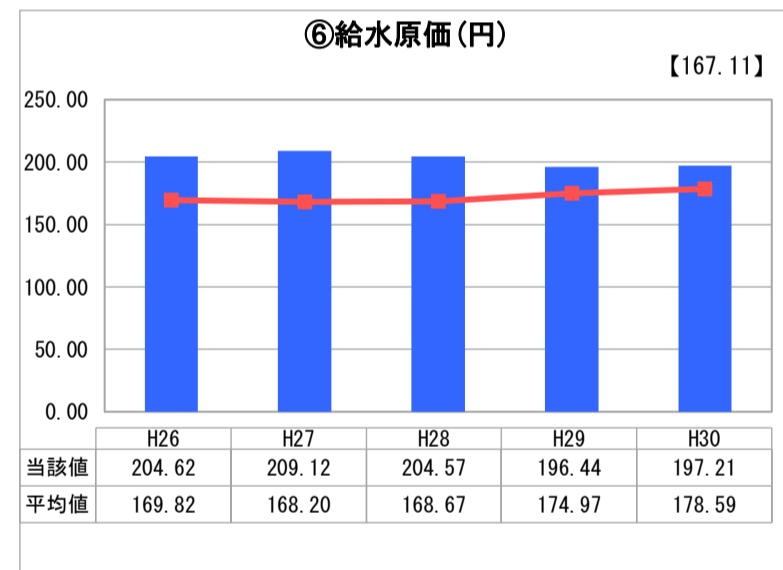
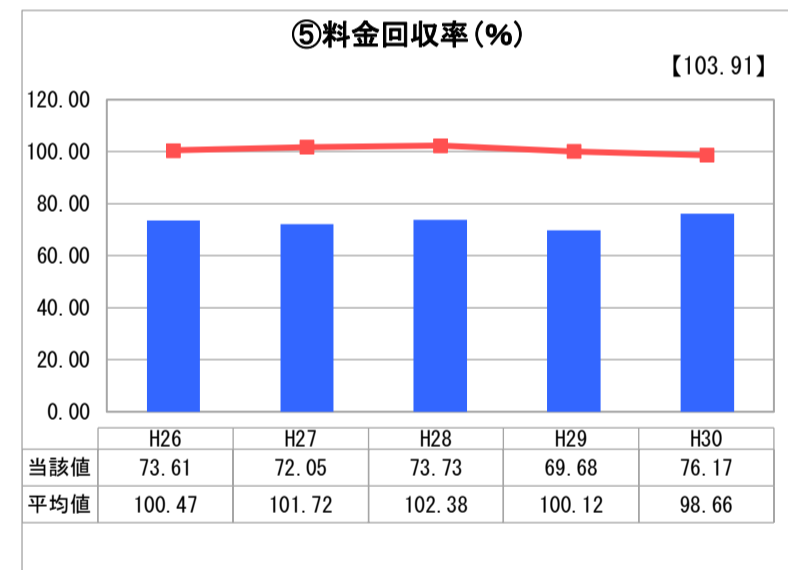
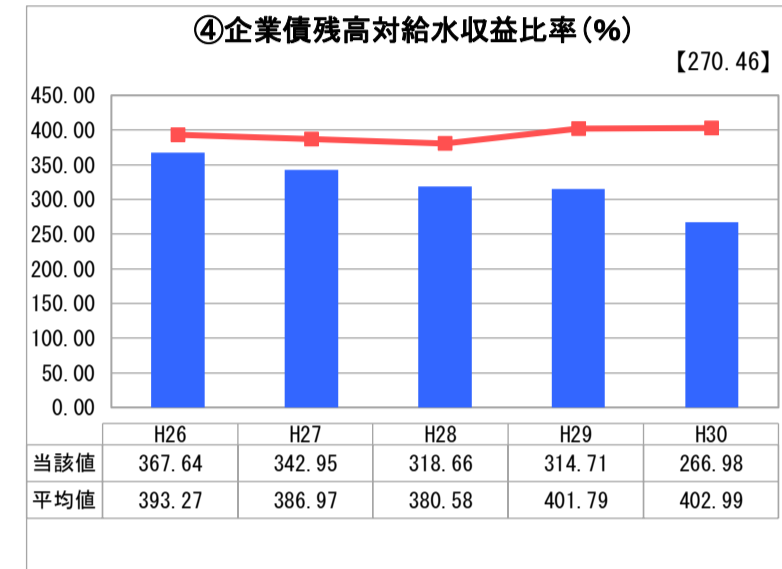
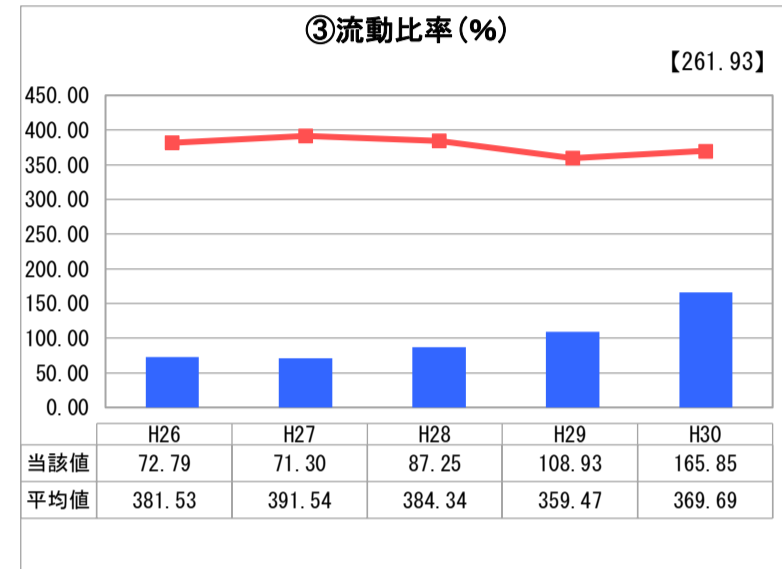
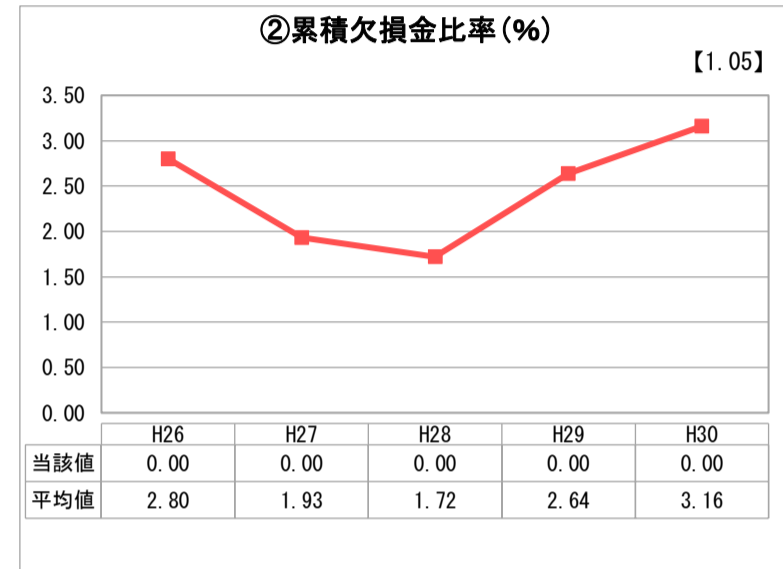
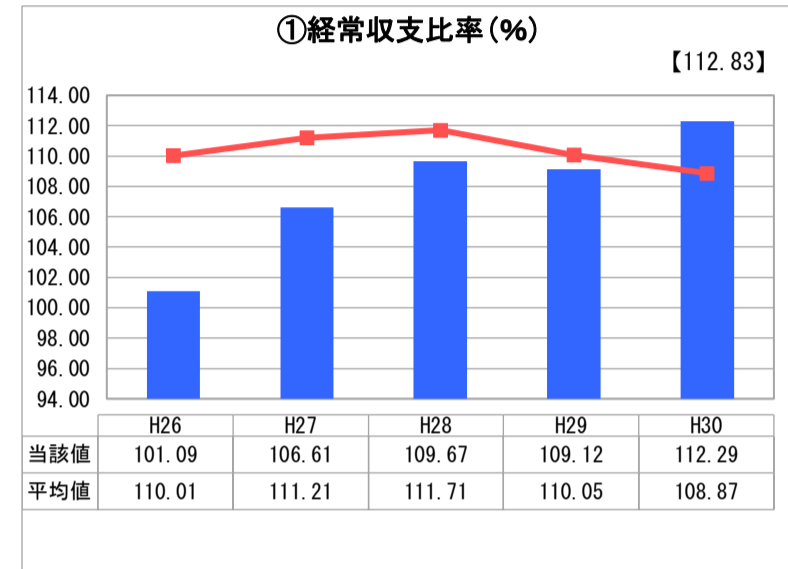
福井県 あわら市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	54.18	89.63	2,862	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
28,263	116.98	241.61
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,267	52.97	477.01

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

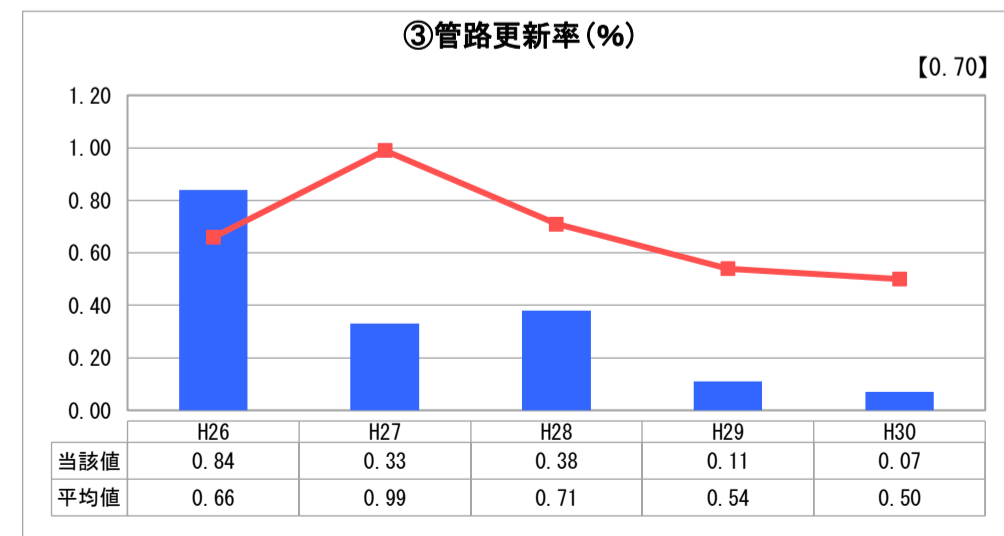
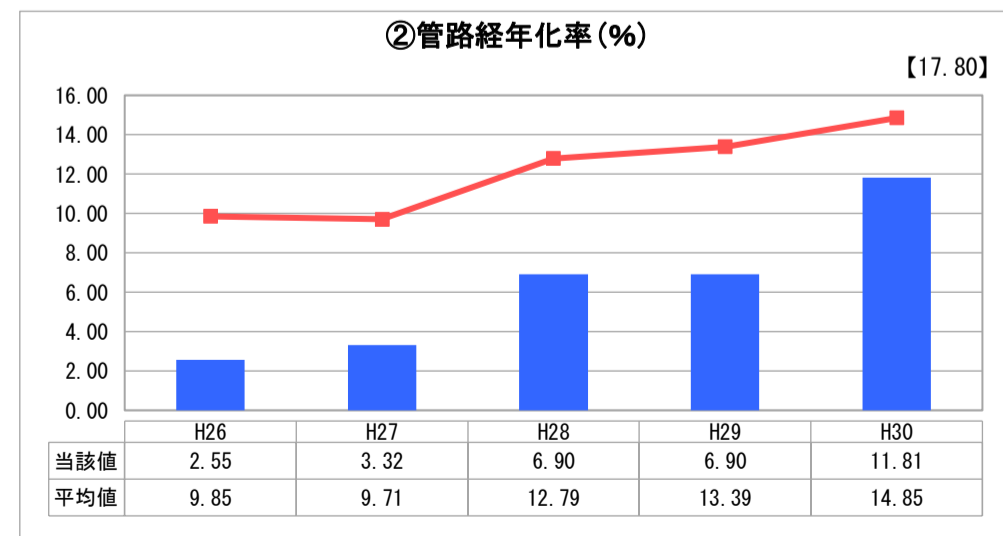
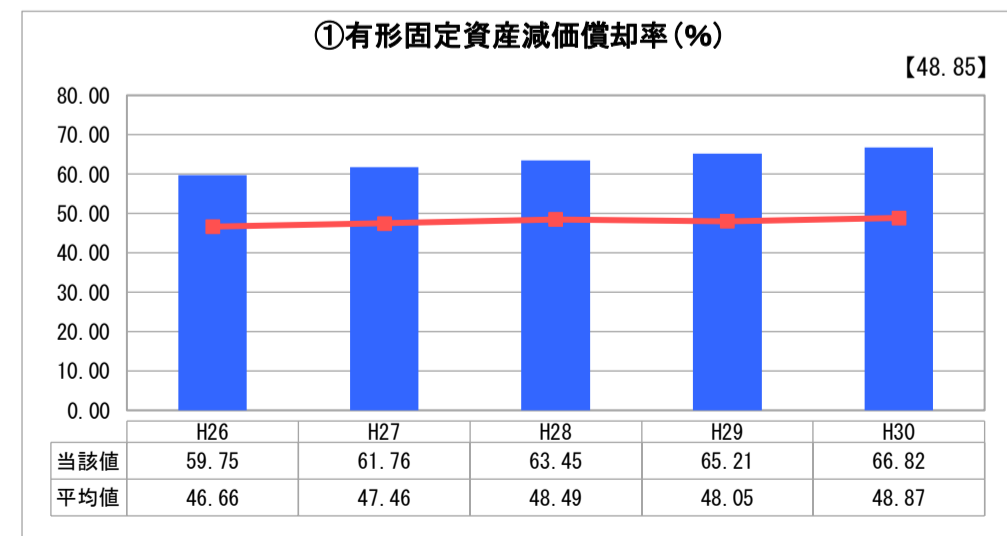
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、昨年度隔月検針の影響により給水収益が1か月減であったのに対し、今年度は12か月分に戻り、平成30年2月の豪雪もあって収益も増加したとともに、賃貸住宅や住宅の建設増に伴う手数料収入が増加したため、一時的なものである。
 ② 一般会計からの補助金により損失を埋めているため、累積欠損金は発生していない。
 ③ 過去の建設改良に対する企業債の返済が減少してきたことにより、流動比率は改善の傾向にあるが、類似団体の平均と比較し低いため、今後も改善を継続していく必要がある。
 ④ 過去の建設改良に対する企業債の返済が減少しているため減少傾向にあるが、今後は老朽化した施設の更新が控えているため、今後は増加する見込みである。
 ⑤ 経費回収率の改善のため料金改定を行う予定である。
 ⑥ 給水原価が類似団体と比較し高額となっている要因は、高額な県水受水によるものである。
 ⑦ 施設利用率が類似団体と比較し低いため、今後の更新に当たり、施設のダウンサイジングを図る必要がある。
 ⑧ 管路の老朽化に伴う漏水等が増えており、有収率が減少傾向にある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、昭和50年から60年代の水道事業拡張期に整備された資産が多いため、類似団体と比較すると高く推移している。
 ② 管路経年化率は、昭和50年から60年代の水道事業拡張期に整備された管路が多いため、今後は経年化が加率的に拡大傾向にある。
 ③ 近年、経営の悪化に伴い管路の更新費用が賄っていないため、更新率が低くなっている。

2. 老朽化の状況



全体総括

給水人口減や節水器具等の普及に伴う給水量の減少により給水収益が減少しているため、今後も今以上に経営状況の悪化が見込まれる。このような中で施設の老朽化が進んでいることから、今後は、経営戦略を基に経営改善を進め、料金改定や広域化などの経営改善策に取り組むとともに、将来の投資財政計画を立てながら、計画的な施設更新を行う必要がある。